

# 信 毎 歌 壇

## 小池 光選

林檎の木すべて倒して旅立ちし深かった父の引き  
際 (小諸市) 星野 直人  
たまさかに新聞に載る吾が歌を妻は吟じて大根を  
煮る (飯山市) 小野沢竹次  
コーヒーを飲みつつ友は語りたり「葬送はフォー  
レのレクイエム」にと (富田村) 小田切孝子  
視力なき眼にも朝日は眩しかり初詣にと外の面に  
出れば (千曲市) 上原 博司  
地吹雪やしたから肩に舞ひ上がりたちまち美女は  
嬪になりぬ (中野市) 増田きみ江  
めらめらと熱を帯びたる風邪の身に沁みゆく粥の  
ほの甘かりし (小諸市) 加藤 陽介  
速き日の和服に白のかつぼう着元旦の膳の母がな  
つかし (長野市) 北沢 亨子  
百歳の老婆の語る今までに一番良き事戦の終り  
目立たない生徒なれども五十年欠かすことなく賀  
状をくれる (飯綱町) 坂井 寿勇  
階段の我が手の荷物持ち上げてさりげなく去る旅  
の青年 (木曾町) 新村 亮三

第一首、なにもかもきちんと整理して旅立った父。林檎園の林檎の木まで切っていた。継ぐ者がいなければ仕方ないのである。第二首、わが作る歌の第一の愛読者たる妻。大根を煮ながら吟ずると

選評

## 小島 なお選

真冬でも売場に並ぶ夏野菜こんな時代に童話生ま  
れず (御代田町) 柳沢 光雄  
万両に雪の積りし正月の着信音のバイブレーション  
君くれた胡桃を割れば総務部や業務部みたいな仕  
切りあるなり (長野市) せきたつお  
収穫は1100お裾分け400 700吊るして  
600カビの餌 (塩尻市) 三浦みい子  
乾電池抜かれしリモコンふはふはと軽くなりたり  
役目を終へて (松本市) 堀内 悠子  
稜線に満月砕く冬枯木 ヒル家砕くミサイル憎し  
妙義なる大権現の夢を見て大股筋を鍛える今年  
 (千曲市) 大谷 善邦  
闇のなか手さぐり作る白アスパラあふれる甘みや  
わやわや (千曲市) 倉石みつる  
版画、ワープロ、プリントゴッコ、フォトシヨッ  
プ、私の買状の小さな歴史 (千曲市) 関 津和子  
冬力ボチャ袋へ入れてコンクリヘエイッとぶんな  
げパカッと割る (飯綱町) 小林 紀子

第一首、いつでも、なんでも手に入れられる時代。不可能を可能にするファンタジーの乏しい時代とも。第二首、白い雪に真っ赤な万両。スマホの細かな震えとかすかに呼応するような鈴なりの実。

選評

## 米川 千嘉子選

溶き卵一個を七人家族にてスプーンですくいし小  
二の夕餉 (駒ヶ根市) 塩沢 登子  
何事もこれが最期と生きて来し友は今年を振り返  
りいん (東御市) 広沢里枝子  
それはまだ架空のできごと何色のペンを選んで手  
帳に書こう (松本市) 上嶋 晴美  
朝食をお雑煮にして今日もまたお正月のごと始め  
むとする (松本市) 堀内 悠子  
寿司、ケーキ、鶏のもも買うタイプの屋一人食む夜  
を考へもせず (千曲市) 関 津和子  
小寒に神渡り神事始まりて白年となるも迫り上  
り見たき (岡谷市) 土田 慧  
ほたたと牡丹雪降れば思ひ出す母の命終に間に  
合はぬ夜を (木曽村) 佐々木千代子  
逆上がり出来たと孫の動画くる出来なかつた我何  
回も見る (佐久市) 小泉 英介  
病室に今宵年越す人もあつてモザイクのやうな窓の  
灯を見る (飯山市) 小野沢竹次  
大食いの番組きらら二人とも飢えを知つてる昭和  
の生まれ (千曲市) 荒井よし子

第一首、戦中や戦後まもなくのことか。卵が貴重だった時代の具体的な記憶は、今の私たちの想像を超えたものだ。第二首、余命宣告を受けながらもたくさんの目標に向かっている友の1年。静かに思

選評

人形をおぶってあやして二歳児は産まれくる子のお姉ちゃんママ (中野市) 大坂くみ子  
うなだれた老犬なれど足早に坂かけ上がる主人引き連れ (伊那市) 赤羽 正彦

孫や子の首める言葉を鵜呑みにし凍てつく朝の晦日蕎麦打ち (伊那市) 竹松 主裕  
お隣りの池田さんちの犬が死す毎日一緒に寝てゐたさうな (長野市) 中沢 義寿

夫逝きてイルミネーションさみしかりとりも一本買つてはみた (佐久市) 伴野チ子  
除雪中愚痴り合いつつ老夫婦済めば妻にも笑顔が戻る (長野市) 青木 武明